

「舌圧子」使いになろう

2019/12/02

関根一朗（湘南鎌倉総合病院ER）

卒後何年目であろうと、専門とする領域が何であろうと、「舌圧子」を見たことも、触れたこともないという医師はそうそういないだろう。今回は、そんな舌圧子の使い方について明日役に立つかもしれないトリビアを共有しよう。

そもそもあなたは、よく見かけるディスプレイザブルな木製舌圧子の添付文書を読んだことがあるだろうか？ 一般医療機器である舌圧子にも、立派な添付文書が存在する。そして、添付文書の冒頭には禁忌が記載されている。舌圧子の禁忌！？ それは「口腔、咽頭の検診以外の使用禁止」ならびに「再使用禁止」だ。なるほど、ならば救急外来で創傷に軟膏を塗る際に舌圧子をヘラ代わりに用いるのは禁忌ということか！？ よかろう。では禁忌を踏まない舌圧子のトリビアとは……？

学習目標

- ・ 舌圧子のトリビアを知り、身体診察の楽しさを再確認する。

舌圧子を水でぬらすと→嫌な味が消える

発熱を主訴に救急外来を訪れた子どもを前に、口腔・咽頭の診察を行おうと意気込んで舌圧子を口の中に突っ込めば、その瞬間に大啼泣が始まるだろう。一生懸命に築き上げたラポールは崩れ去り、目の前の子どもは口腔診察を断固拒否——。こんな経験はないだろうか。実は、その子どもは舌圧子の味を嫌っているのかもしれない。木製の舌圧子は、ほんのり苦くマズいのだ。この苦みを和らげるコツとして、「舌圧子をぬらす」ことをお勧めする。診察室の水道水でよい。舌圧子に水をかけてみると、うまくなるとはいわないまでも、独特の苦みがマイルドに変化するのだ。

さて、ぬらした舌圧子を手を持ち、再度子どもと向き合ってみる。今度はどうしたことだろう、子どもは歯を食いしばっているではないか。「ほら、あーんしてごらん」と言って、実際に「あーん」しているのは診察室であなただけ。子どもの歯列はガッチリと閉ざされている。そんなときは、下口唇と歯肉のハザマにそっと舌圧子を差し込んでみよう。あら不思議、食いしばっていた歯列にスキマが生まれ、口腔内に舌圧子を挿入できるようになる。



写真1 下口唇と歯肉のハザマに舌圧子を差し込む

舌圧子を挿入できないときは→口腔内をつつく

患者の口を開く方法には、他に「**K-point刺激法**」がある。もともとは言語聴覚士や看護師が患者の口腔ケアを行う際に、開口させる方法として紹介されたものである¹⁾。臼後三角後縁のやや後方の内側が**K-point**と呼ばれる。このK-pointに軽く触圧刺激を与えて開口を促す方法が、K-point刺激法である。指で刺激しようとする指をかまれてしまう可能性があるが、頬粘膜の内側に沿わせて舌圧子をそっと挿入し、一番奥の歯（大臼歯）の、さらに後ろ（臼後）の「歯のない部分」から、軟骨に沿って隆起部を下りたところにあるK-pointを優しく刺激すると、開口できるかもしれない。

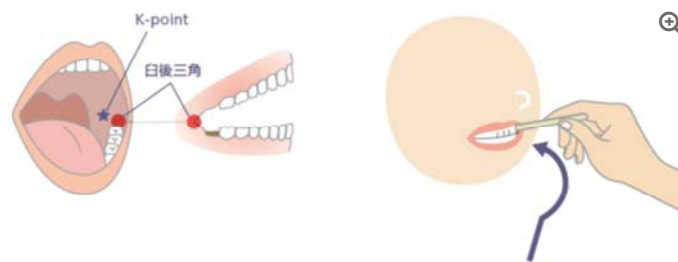


図1 K-point刺激法（出典：Kojima C, et al. *Dysphagia*;2002.17;273-7.）

舌圧子をしっかりかめたら→下顎骨骨折は否定的

さて、もう1つのトリビアは、舌圧子が外傷の診察にも有用であるということだ。転んだり、殴られたり、様々な外傷でヒトは下顎部痛を訴える。当然、受傷機転や身体診察から下顎骨骨折を疑えば、単純レントゲン（パノラマ撮影）や顔面骨CTで骨折の評価を行うことだろう。ただし、受傷機転や身体診察で積極的には下顎骨骨折を疑わないが、でも骨折が心配なときはどうしよう？そんなときは舌圧子を用いて「tongue blade bite test」を行ってみよう。患者に両側の大臼歯で舌圧子をしっかりとんでもらい、舌圧子を放さないように指示する。そして、患者がかんでいる舌圧子をひねる。両側ともに患者が痛みに耐えられ、ひねった舌圧子がバキッと折れたなら、下顎骨骨折は否定できる。逆

に、痛みに耐えられず、舌圧子が折れる前に放してしまう場合は、下顎骨折の可能性が残るため、慎重な方針決定を要する^{2, 3)}。

動画1 tongue blade bite test



終わりに

身近な一般医療機器「舌圧子」のトリビア、いかがだったでしょうか。今まで以上に愛着を持って、診察に用いることになるはずである。新しい検査が日進月歩で生まれてくるが、ベーシックな身体診察が無意味となることはないだろうし、長い歴史を持つ舌圧子が消滅することもないだろう。1人でも多くの医師が身体診察に楽しさを感じ、患者に向き合うことを願っている。

今回のポイント

- ・水道でぬらすとうまし 舌圧子。
- ・口唇と 歯肉のハザマ 差し込むぜ。
- ・閉じた口 K点刺激で あくかもよ。
- ・下顎骨 捻って折れたら 骨折なし。

【参考文献】

- 1) [Dysphagia. 2002;17:273-7.](#)
- 2) [J Emerg Med. 1995;13:297-304.](#)
- 3) [Am J Emerg Med. 1998;16:304-5.](#)